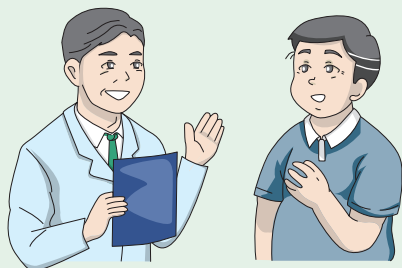


- このお薬の服用で、気になる症状があらわれた場合やわからないことがある場合には、**主治医または薬剤師に気軽に相談**してください。



保管等に関する注意点

- 直射日光・高温多湿を避け、子供の手の届かないところに保管してください。
- このお薬はあなただけに処方されたお薬です。他の人に譲ったり渡したりしないでください。

日医工の グリベンクラミド錠

を服用される方とご家族の方へ

血糖値を下げるお薬が処方されています。

- 危険な低血糖症を起こすことがあります。
- 予防と処置法に十分注意してください。
- この注意は必ずご家族やまわりの方にも知らせておいてください。

飲み方について

- 主治医または薬剤師の指示通りに服用してください。自分の判断で服用を中止したり、服用する量をかえたりすると病気が悪化することがあります。
- 体調不良や食欲がないために食事がとれない時は、主治医に連絡して指示を受けてください。
- 飲み忘れた時は、次に服用する時間に1回分を服用してください。決して2回分を一度に服用しないでください。

低血糖症についての注意点

1. 低血糖症とは

- 血液中の糖分が少なくなりすぎた危険な状態で、**強い空腹感、力の抜けた感じ、冷や汗、手足のふるえ、頭痛、意識を失う等**の症状があらわれます。

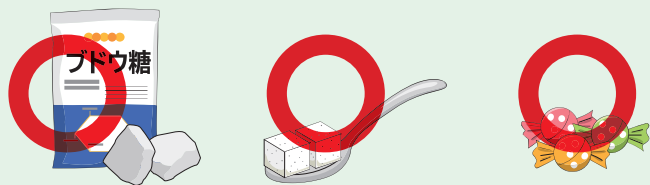


- **高所作業や自動車の運転等危険を伴う作業をしている時に、低血糖症を起こすと事故につながります。特に注意してください。**

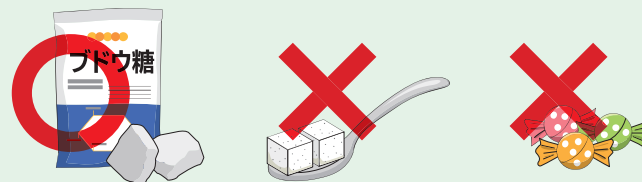


2. 低血糖症が起きたら

- 普段から砂糖などをもち歩き、低血糖症の症状があらわれた場合には、**すぐに砂糖あるいはブドウ糖**を摂取し、**意識が薄れてきた場合には、ただちに主治医に連絡してください。**



- α グルコシダーゼ阻害剤（アカルボース製剤、ボグリボース製剤、ミグリトール製剤）と併用している場合には、必ず**ブドウ糖**を摂取してください。



3. 低血糖症の予防には

- お薬の量や飲み方は、主治医または薬剤師の指示を守ってください。勝手にお薬の量や飲み方をかえるような**自己流**のやり方は危険です。
- 食事療法や運動療法はきちんと守ってください。食事をみだりに減らしたり、抜いたりせず、お酒の飲みすぎや激しい運動、下痢などに注意してください。
- 糖尿病のお薬を服用していることを書いたカードを身に付けておきましょう。意識を失うような低血糖症の症状があらわれた時に、すぐに治療してもらえるようにしておくことは重要です。
- このお薬には一緒に服用する時に注意が必要なお薬があります。他の病院を受診する場合や、薬局などで他のお薬を購入する場合には、**必ずこのお薬を服用していることを医師または薬剤師に伝えてください。**